

# 松 風

## 福島県公立学校退職校長会

- 郷土の祭り紹介…………… 1
- 県教委への要望活動・懇談会…………… 2
- 高校長協会・小中校長会との懇談会ほか …… 3
- 論壇、随想…………… 4
- 趣味と生きがい…………… 5
- 特色あるクラブ活動ほか …… 6

〒960-8107 福島市浜田町4-16 富士ビル2階  
 TEL (024) 534-5411  
 FAX (024) 531-1195



太鼓台競演



稚児行列



蔵太鼓実演

### 郷土の祭り紹介

## 喜多方の夏祭り

耶麻支部 猪俣 薫

私は今年の夏祭りで膝を痛めました。いい年をして長時間太鼓台を引いた結果です。

喜多方の八月には大きな三つの祭りがあります。

一つ目は膝を痛める原因となった二・三日の北宮諏方神社（小荒井）の祭礼です。

幼い頃、太鼓台を引いた後にもらうお菓子が楽しかったです。十七町内から出る太鼓台は十三台。太鼓台の大きさや形は異なるものの、各自が「自分の町内が一番」という意気込みです。

私にとって祭りの主役は神輿渡御です。高下駄を履いた天狗様やおかめ様、白装束・烏帽子姿の若者等を先頭に、宮司様、薄緑と薄桃色の装束を纏った各町内の稚児（小学生）が静々と続き、各町内の御旅所でご祈禱します。

しかし、最近はその少子化のうえ、コロナ・猛暑の影響で稚児を集めるのが大きな課題です。今年も四年ぶりの稚児行列ということですが、

成会等に働きかけ、総勢十六名の稚児を集めることができました。

二つ目は十・十一日喜多方出雲神社（小田付）の祭礼です。ここでは五台の太鼓台が練り出され、同様の行事が斎行されます。

かつての小荒井と小田付では交流があり、それぞれの祭礼や初市ではお客様のためお膳を用意して下さるなど、喜多方における良き風習でした。

最後に蔵のまち喜多方夏祭りです。十四日は子どもまつり囃子、蔵太鼓、庄助踊り。十五日は全市から二十台を超える太鼓台が集結して大通りで競演します。

当初は観光の目玉にの思いがあったかもしれませんが、半世紀以上を経た今では帰省する地元出身者にとっても懐かしく楽しい行事となっています。

他にもいろいろな祭りが各地で練り広げられ、銘々が夏の喜多方を満喫しています。

# 県教委への要望活動

## 要望書の手渡し

令和五年七月二十八日、県庁西庁舎五階教育委員室において、福士寛樹会長より大沼博文県教育長へ、実現へ向けて、今後取り組みたい旨を申し上げ、「要望書」を直接手渡した。

### ◆主要要望内容

- 本県学校教育の復興・創生・充実のため、教育諸条件の整備・充実に努めていただきたい。
- 新学習指導要領を踏まえた持続可能な開発のためのESD・SDGsの積極的な推進
- 県立高校の特色化・魅力化が一層深化できるように、十分な教育予算の確保
- 教員の多忙化解消・働き方改革等に適切に対応するための教員の計画的採用増と研修の充実
- 加配教員やSC、SSW、部活動指導員、スクールサポートスタッフ等の継

### 統一的配置と拡充

- ・特別支援教育の充実のための学級編制基準緩和と優秀な教員等の確保
- ・SNS等に起因する問題等に対応する連携体制の構築とネットリテラシー教育の充実
- ・ICT環境のさらなる充実と情報教育担当指導者・ICT支援員の確保
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の徹底
- ・児童生徒が安全で安心して学べる教育環境及び施設・設備の充実
- 年金制度及び医療・福祉等の充実、退職者の再任用や講師の登用等について、関係機関に強く要望していただきたい。



要望書の手渡し

# 県教委との懇談会

懇談会は、大沼博文教育長、教育次長、各課長等十二名、本会より福士寛樹会長と事務局員八名が出席し開催された。

はじめに、福士会長から

要望書の実現へ向けて、特に、コロナ感染症への対策や優秀な教員確保のため、教員の魅力の積極的かつ計画的な発信についてお願いを申し上げた。続いて、大沼教育長より「設立以来、組織力を生かし本県教育の推進に多方面から支援いただいていることに感謝を申し上げる。第7次福島県総合教育計画において、すべての子どもに必要な資質・能力の育成を目指し、「学びの変革」の実現に向け、「学校の在り方の変革」に取り組んでいる。各施策の推進には、退職校長会など教育に関わる皆様と意思を共有し、取り組んでいきたい。今後とも指導・協力を賜るようお願い申し上げます。」等のご挨拶をいただいた。

懇談会では、坂爪事務局

長が、要望書の説明に加え、「学習指導要領実施における教育環境の整備」、「優秀な教員の計画的な確保と配置」、「福島県ならではの教育施策の展開」等について

これらに対し、各課長等から施策も含め次のような説明があった。

○概ね一人一台端末の配置を終えており、活用が進んでいる。今後、その更新をしっかりと進めたい。

○小・中・高で、福島の復興に寄与する社会体験活動に取り組み「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業を継続している。

○SCをすべての中学校・高校に配置し、SSWは各教育事務所に複数名配置し、状況に応じて対応できるようにしている。

○県立高校の普通科にコース制(医学、保健・医療、教育、福祉)を導入し、大学等と連携して体験学習などを実施している。

○通常学級で特別な支援の

必要な児童生徒への対応として、各地域に特別支援教育アドバイザーを配置し、支援を行っている。

○中・高に部活動指導員を配置し、部活動の地域移行は、地域の実態に沿って推進されるよう県教委として支援していきたい。

○県教委の公式サイトでの教員の魅力の発信、地域枠など採用試験の工夫改善等で教員志願者の確保に努めていきたい。

最後に、坂爪事務局長が教育課題に向けた様々な取組に感謝を述べるとともに、今後も効果的な対策を講じていただけるようお願いし、閉会した。



懇談会の様子





県小・中校長会との懇談会

県小・中学校長会との懇談会

令和五年七月三日(月)、福島市吾妻学習センターで実施。主な内容は次の通り。

- ◆生徒指導部調査結果より
  - ・震災・原子力災害が要因と思われる反応を示す区域外就学児童が増加
  - ・不登校児童生徒の増加、関係機関との連携強化
  - ・「いじめ見逃し0」の指導体制のさらなる構築
- ◆行財政部調査結果より
  - ・児童生徒数・学級数は減少。特別支援学級児童生徒数・学級数は増加



県高等学校長協会との懇談会

県高等学校長協会との懇談会

県教委との懇談会に備えて  
相互理解と協力強化のために

令和五年六月一日(木)、福島東高等学校において協会代表者との懇談会を実施。

- ◆新型コロナ五類後の状況
- ・運動部大会の通常開催
- ・マスクを外すことに抵抗感をもつ生徒多数
- ◆県立高校改革等
- ・定員割れや統廃合が進む中山間地区の生徒の教育活動の充実

- ・少人数教育による学習面・生活面への効果が大きい
- ・コロナ感染対策の学校業務支援員の配置継続
- ◆被災地区等における現状
  - ・小人数のプラス面を生かした学びの保障と推進
  - ・地元出身教員の確保と地域に根ざした教育の推進
- ◆中学校における進路指導
  - ・私立高校への進学生徒の割合が増加
  - ・不登校生徒の通信制進学のケース増
  - ・高校の特別支援学級における支援体制の充実

- ・普通科コース制・探究学習へのさらなる財政支援
- ◆高校入試制度
  - ・入試日程と受験生の私立高校への流出
  - ・入試業務の集中による多忙化、在校生への影響
- ◆特別支援教育
  - ・対象児童・生徒の増加
  - ・小中学校との交流及び協働学習のさらなる推進
- ◆探究学習・ICT教育
  - ・探究学習の定着とICT普及による学びの変化
  - ・通信制における一人一台の端末整備補助

宮城大会報告

第四十九回東北地区退職校長会協議会宮城大会は、新型コロナウイルス感染症の蔓延状況を考慮し、一日開催とし十月十二日(木)に仙台市のホテル白萩で行われた。福島県からは福士会長を含め十名が参加した。内容は次の通り。

- ◆理事会
  - ・役員人事(五・六年度)
  - 会長 太宰 明(宮城)
  - 副会長 各県会長
  - 理事 各県二名
  - 幹事 各県一名
  - ・各県からの情報提供
- 〈デジタル化等について〉
- ・デジタル化の推進は必要であり、ゆっくりに、じっくり進めていく。
- ・次年度大会について
- 開催県 福島県
- 開催月 十月開催予定
- ◆講話「充実した生き方や地域の教育・文化の向上に資する活動はどうあるべきか」
- 《講師》全国連合退職校長会会長 田中昭光様



宮城大会の様子

- ・国の教育施策と全連退の役割としての行政への働きかけ、そして各県退職校長会とのつながり
- ・退職校長会の教育活動の継続・充実の大切さ
- ◆話題提供・協議
  - 秋田県「秋田県退職校長会の現状と課題」
  - ・各支部の特色ある活動と会員数減少等の課題
  - 青森県「中弘南黒支部(この十年の活動)」
  - ・サークル活動など特色ある支部の活動と学校数の変化
  - 岩手県「岩手県退職校長会の会員数の動向と新たな盛岡地区会の取組」
  - ・楽しく学ぶ「この指とーまれ」と「学校の平和教育支援」、年度末定年退職校長への声掛け

この夏、岩手の三陸を旅した。本県の浜通りと同じように震災の時に甚大な津波の被害を受けた所だ。三陸海岸や大槌町等、震災により大きな被害を受けた場所は、今どうなっているのだろうか、釜石の奇跡と呼ばれたあの釜石は、今どうなっているのだろうか等、自分の目で見えたかったからだ。釜石市は、町全体が整備され、

なつて鶴住居地区の小学生や地域の高齢者に声をかけ、総勢六百人で高台を目指し津波から逃れたことを、ホテルの従業員の方から教えてもらった。しかしその鶴住居地区でさえ実は、百六十人もの方々が犠牲になったことも伺った。

実際に訪れ、自分の目で見たり耳で聞いたりしたことが、テレビやインターネット等から得た情報等と大きく異なることを肌で感じた。さて現代は、科学技術の発達やグローバル化により、スマホやデジタル機器、AIなどが溢れており、驚く程便利になった。幼い子どもたちまでもがスマホやタブレットを持ち、興味ある情報「のみ」に浸っているように見える。大人も勿論である。しかし、直接体験や直接経験が少なくなり、人と人が直接接し合うことが

論壇

直接体験

副会長 沢 宏 一



行われた釜石鶴住居復興スタジアムも、立派な姿を見せていた。海岸近くの道路は勿論、至る所に津波到達場所の看板が見られ、後世に津波被害を伝えようという強い思いを感じた。更に、防災センターや慰霊碑、いのちをつなぐ未来館等の新しい施設も多くあった。震災当日、釜石東中学校の生徒が、率先避難者と

が少なくなつた今の社会に不安を抱いているのは、私だけだろうか。以前車で通勤していた私に、「歩くとねえ、車では見えなかったことがたくさん見えるよ。私たちは、大腿で回りを見ないで生活しているんじゃないの」と、先輩の先生が教えてくれたことを思い出した。

三陸からの帰りに、憧れていた三陸鉄道に乗った。短い区間であったが、体を揺らし、ガタンガタンと懐かしい音を出して走る電車の区間だった。平田駅に着いた時、ご年配の方が乗車して来た。すると、運転手の方がすかさず駆けつけ、おばあちゃんの手を握り優しく乗車を手伝ってくれた。車掌さんがいないワンマンの電車だ。旅の最後に嬉しい光景を見せてくれた電車を、見えなくなるまで見送ってから、旅を終えた。

随想

「伴走者から学ぶこと」



岩瀬支部 安藤 俊典

盲学校退職後一年目の後半に、「社会福祉法人うつみね福祉会」から「相談支援事業所ひだまり」を立ち上げてから、現在、丸九年になるうとしております。

障がいのある方のサービス等利用計画を作成するのが主な仕事で、二歳から七十五歳の方まで担当しておりますが、福祉という分野で新たな発見が多く、おかげさまで充実した日々を過ごさせていただいております。

その他、同じ法人で運営している児童クラブ館七館で、発達障がい児の相談を受けているうちに、館長も兼務することになりましたが、その関わりの中で、子どもと共に私たちは育てていただいているということを実感し

ているところです。

つまり、大人の立場でどうしても何かを教えるような関わり方をしてみたいがちですが、子どもたちが心を寄せる関わりが大切であるとひしひしと感じております。

それは、視覚障がい者のマラソン大会では「伴走者」の役割と言えるでしょう。「先導車」の白バイではなく、ランナーの隣でいつも彼らを励まし、寄り添いながら同じゴールを目指します。

何か一つその子が成し遂げたときは、そのマラソンでゴールする瞬間となりますが、私たちはその喜びを同じ景色、同じ過程を歩んだ者として共に味わうことができ、そして、喜びを共感することで、私たちも成長することが出来ます。

これらの醍醐味を身近で味わうことができることは、何よりの喜びであり、これからも子どもたちから元気をいただきたいと思っております。



趣味と生きがい

爺ちゃん三刀流



伊達支部 津村 栄

昭和二十一年の秋、国民学校の六年生の私は初めて俳句に出会い、その魅力にすっかり取り憑かれてしまったのです。

高校一年時、県高校俳句大会で秀逸に入賞し嬉しかったのが昨日のように思われます。あれから断続ながら七十五年間にわたり句作しております。

或る先輩から、「たくさん作り、どんどん捨てなさい。」と言われた意味が理解できたのは、八十歳の頃でした。現在二百句ほど手元に残しておる状況です。この中から「かきつばた」の一句をあげておきます。

一水に一白の映え杜若

そして八十五歳の頃、知り合いの川柳作家の方から

誘われるままに二刀流を始め、四苦八苦したのも今では楽しい思い出です。

妻の後つかず離れず

カート押す

プーチンと対話したいとトルストイ

近頃は「爺ちゃん、翔平君に負けず三刀流で行って」との声援に押され、短歌も始めました。

わが庭の目あては遙か大原のベニシアさんのあるがままの庭

まあ、どこまでできるか、「突進あるのみ」です。

四国遍路・同行二人



石川支部 寺門 廣之

四国八十八カ所。全行程約千二百km。空海の道であ

る。無理なく歩くことを目標にした。三県目を回ろうとした時に、コロナの影響で中断した。徳島県では、険しい道のりの「遍路ころがし」の洗礼を受け、十二番焼山寺にやっとの思いでたどり着いた。町なかで、自転車に乗った若者が、「お接待です。がんばってください。」と小さな袋を差し出す。飴玉二個と百円玉が二枚入っていた。食事や茶菓子の接待、そして洗濯の接待まで受けた。

趣味と実益を兼ねて



両沼支部 泉 光洋

高知県に入る。次の寺までは五十km、八十kmと長い距離が続く。海岸線の道をひたすら歩く。室戸岬では、空海の修業の場として知られる御厨人窟（みくろど）が迎えてくれた。空海の名前の由来を肌で感じる。民宿や宿坊に泊まり、リフレッシュして朝一番に出発する。外国からの巡礼者と一緒に歩くこともある。お寺は誰を拒むことなく受け入れてくれる。ろうそくの炎が読経の声にゆれる。さあ、次は少しでもリュックを軽くして四十五番の岩屋寺から出発しよう。



四国遍路

日本人男性の健康寿命（健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間）は、長いのか短いのか平均七十二・七歳です。そこで私の第二の人生は、今一番はまっているゴルフを通して健康寿命を伸ばしたいと考えました。

私は、五十六歳でスコア155からスタートし、十年目となります。三年前教育現場を離れ、楽しむだけ

のゴルフから、少し上を目指そうと考えるようになり、起床後じっくりと十五分かけてストレッチ体操をします。体が硬い私は、まだ前屈で手が床につきません。朝食後は約六kmのウォーキング、そして一日一万歩を続けています。

ゴルフでは、週一回以上の打ちっ放しの練習（支配人にご指導をいただきながら）と週一回のゴルフ場でのラウンド、自宅では近所の目を気にしながら、素振りとアプローチ、パターの練習を行っております。もともと身体能力と才能のない私ですが、自己ベスト82まではこぎつけました。また、地域や退職校長会などのゴルフコンペに積極的に参加し交流を広げることも励みになっていきます。

これで健康寿命が一ヶ月は延びているように思えます。ただし、私は平和主義者です。家族（年輩の母と妻）サービスタと地域貢献（現在は民生委員等）のバランスにも配慮しています。

特色あるクラブ活動

フォトα

安達支部

本支部には『フォトα』クラブ一つがあり、写真に加えて各自が関心のある趣味・俳句・郷土資料など、何でも取り組み発表し合うオープンな会である。

各会員は、退職後の生活で心の張りや潤いを保つため、現職時にやれなかった創作や研究などを行っている。その取組の一部を持ち寄っている。このことは、現職時には教育活動を中心に撮っていた写真も、散歩などで何気なく撮影したものに新たな視点や関心を与えることで、日々の生活や小旅行にも意欲を高める機会となる。また、カメラ機能の学びに加え、被写体の多様性やアングルの工夫と意外性などを再確認できることは楽しいものである。現在は、五名で二ヶ月に一度の例会を行い、年四回の発表機会がある。退職後の再任用など社会状況は厳しいが、私たちは今の活動を継続し、仕事に一段落し

た会員が息抜きの場となる環境づくりに努めたい。人生の最終段階は、周囲の方々と初心を忘れず生活を楽しみながら、少しでも発信に心がけたい。

(フォトα 伊藤 末吉)



自然の中で

南会津支部

南会津支部では支部活動として、パークゴルフを行っています。コロナにより中断していましたが、十月に四年ぶりに実施することができました。

郡内の下郷町には素晴らしいパークゴルフ場があり、そこで道具を借りることも

できるので、手ぶらで参加できます。また難しいルールもないため、性別、年齢、経験の有無に関わらず楽しむことができます。



さわやかな自然の中で

さわやかな景色の中、昔話に花を咲かせたり、お互いのプレーに歓声を上げた。楽しい時間を過ごすことができました。親睦が一番の目的と言え、やはり勝負事となると負けたくないと思うのは、年齢を重ねても同じ。忸度などなくみんなが本気で頑張る中、今回の優勝者は最年長の参加者である九十代の大先輩でした。その姿に刺激を受け、次回はリベンジをと思ったのは私だけではなかったでしょう。

来年以降も地元の立派な

支部長会報告

施設を活用し、春・秋の二回開催で、より多くの会員に楽しさを感じてもらいたいと思います。(クラブ長 星 賢二)

令和五年十一月六日(月)、福島市北信学習センターで支部長会を開催した。今回は新たな試みとして、会に先立って研修会を行った。

研修会

講話「福島ならではの教育の実現に向けて」

講師 福島県教育庁教育

総務課長

堀家健一様

支部長会

◆主な報告事項

- ・ 県大会郡山大会
- ・ 東北地区協議会宮城大会
- ・ 事業の実施状況
- ・ 新入会員、会員数
- ・ 教育懇談会
- ・ トルコ大地震義援金など

◆主な協議事項

- ・ 第五十八回福島県公立学校退職校長会二本松大会
- ・ 定年引き上げによる制度変更にかかる入会時期
- ・ 第五十回東北地区協議会

福島大会

- ・ 創立六十周年記念誌
- ・ 令和六年度活動の重点目標(案)
- ・ 令和六年度予算編成の方針・予算(案)
- ・ 令和六年度要望活動の方針(案)
- ・ 令和六年度教育懇談会実施要項(案)など

◆主な連絡事項

- ・ デジタル化推進補助等
- ・ 令和六年度「寿詞・賀寿・賀詞」該当会員名簿
- ・ 令和六年高齢者叙勲該当者名簿など

編集後記

「宮城大会」では、各県のデジタル化の必要性が確認されました。本会でも、ホームページの充実を図っているところです。なお、支部長会での講話をホームページに掲載しましたので、ぜひご覧ください。



ホームページ二次元コード  
【会員専用パスワード】  
9604162  
毎月1日は閲覧日